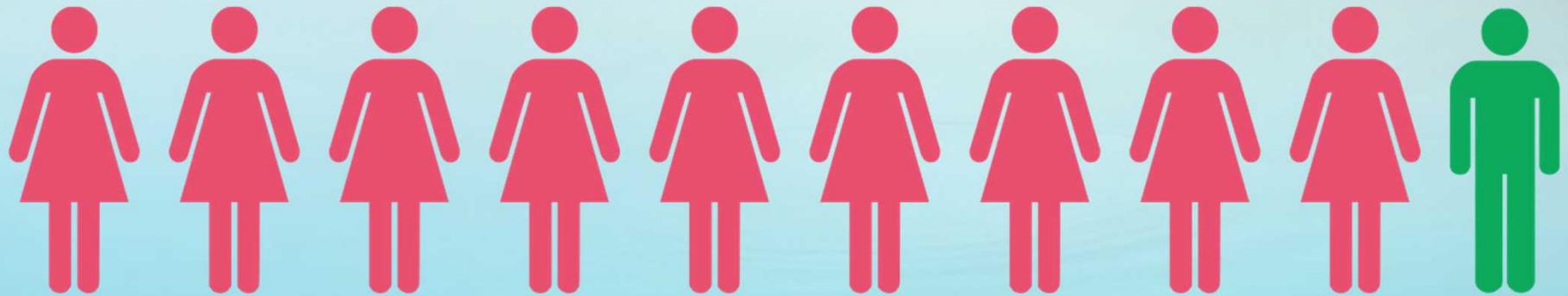


患者の立場からみたリウマチの現状 —『2015年リウマチ白書』〈総合編〉より—

『リウマチ白書』について

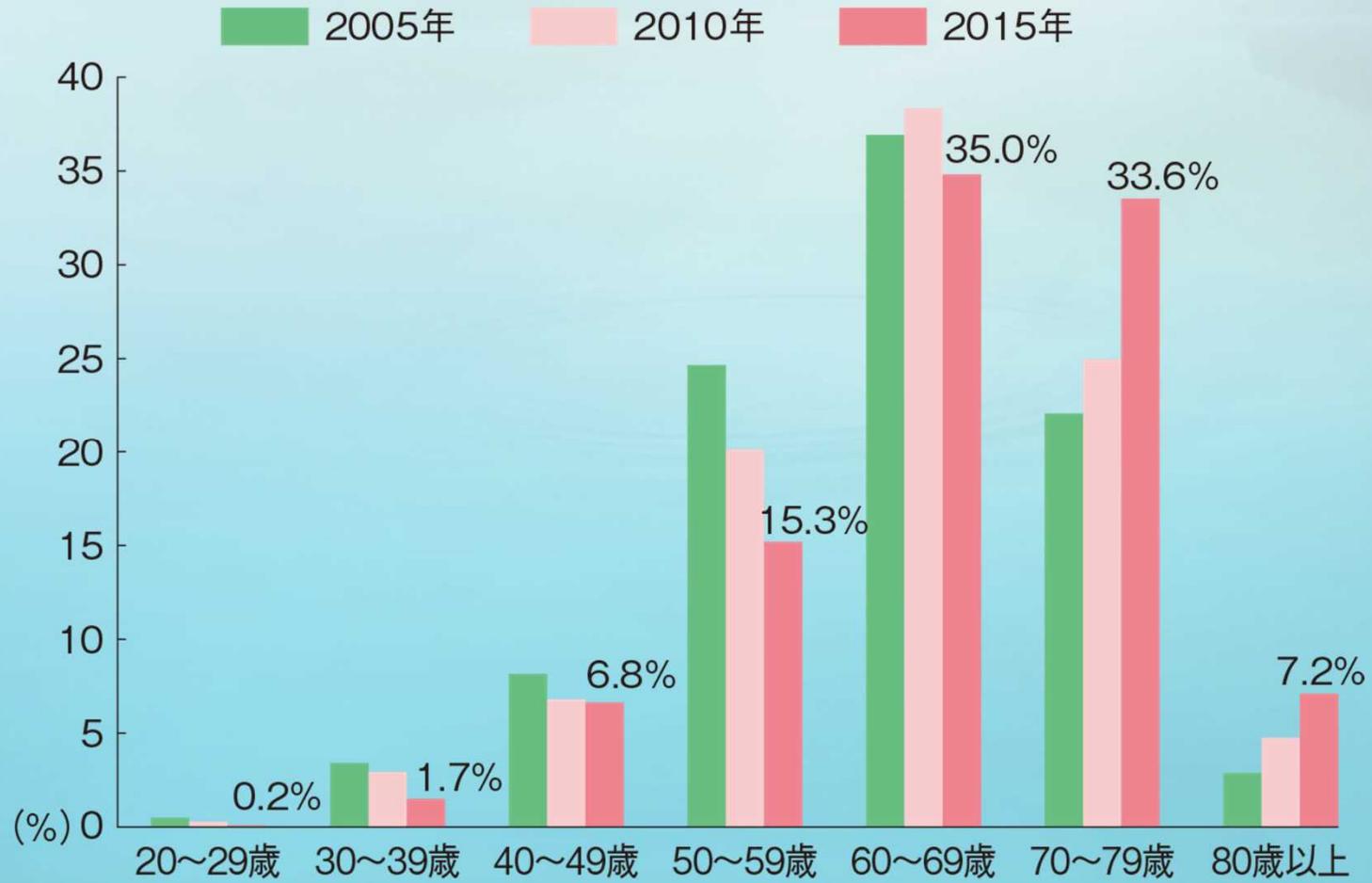
- ・ リウマチ友の会が、5年ごとに実施している、「リウマチ患者の実態調査」の結果をまとめたもの（対象はリウマチ友の会会員）
- ・ リウマチ患者をとりまく医療・福祉・社会環境などについて、患者の現状を反映している

性別

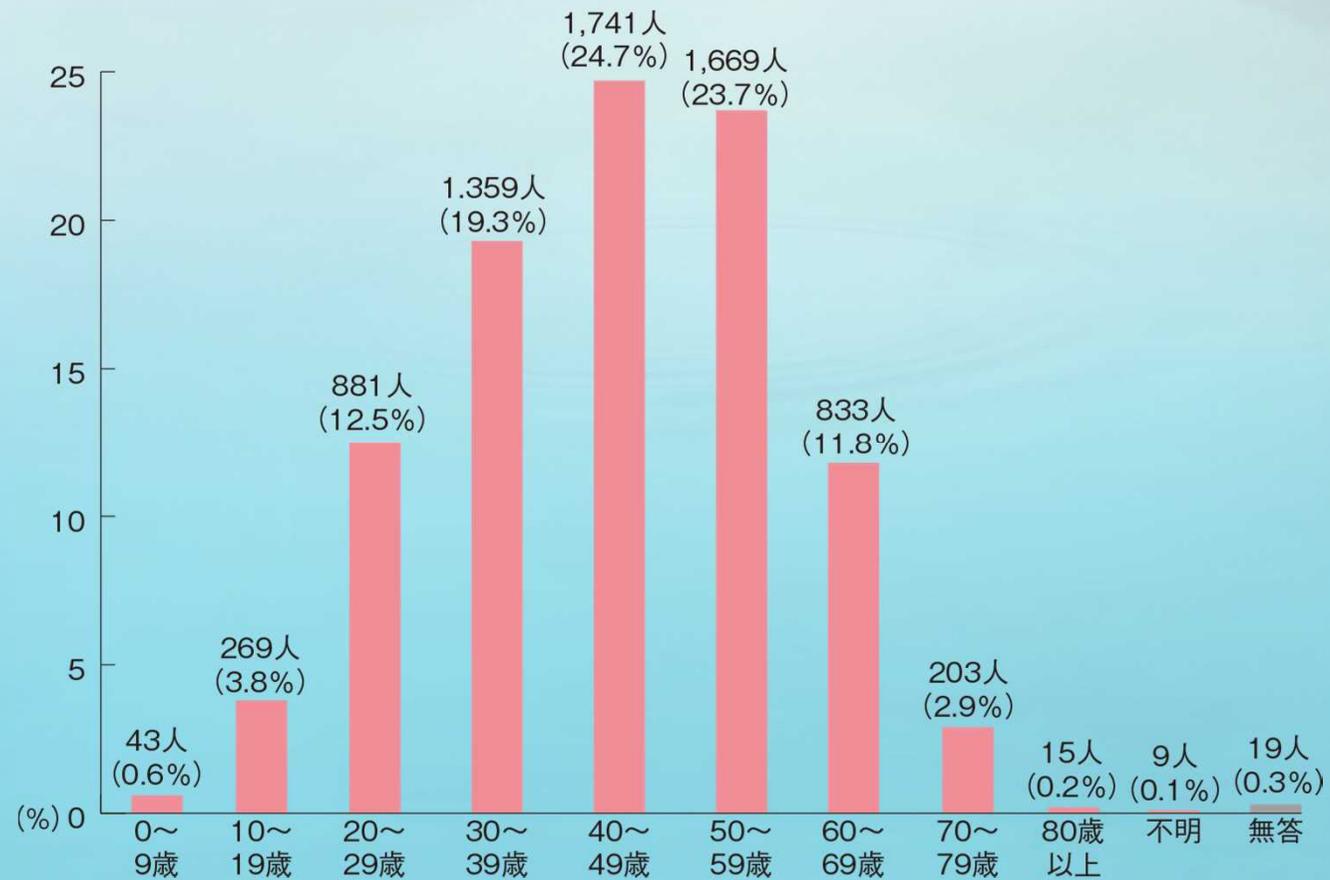


合計	女性	男性	無答
7,041人(100.0%)	6,333(89.9)	455(6.5)	253(3.6)

年齢



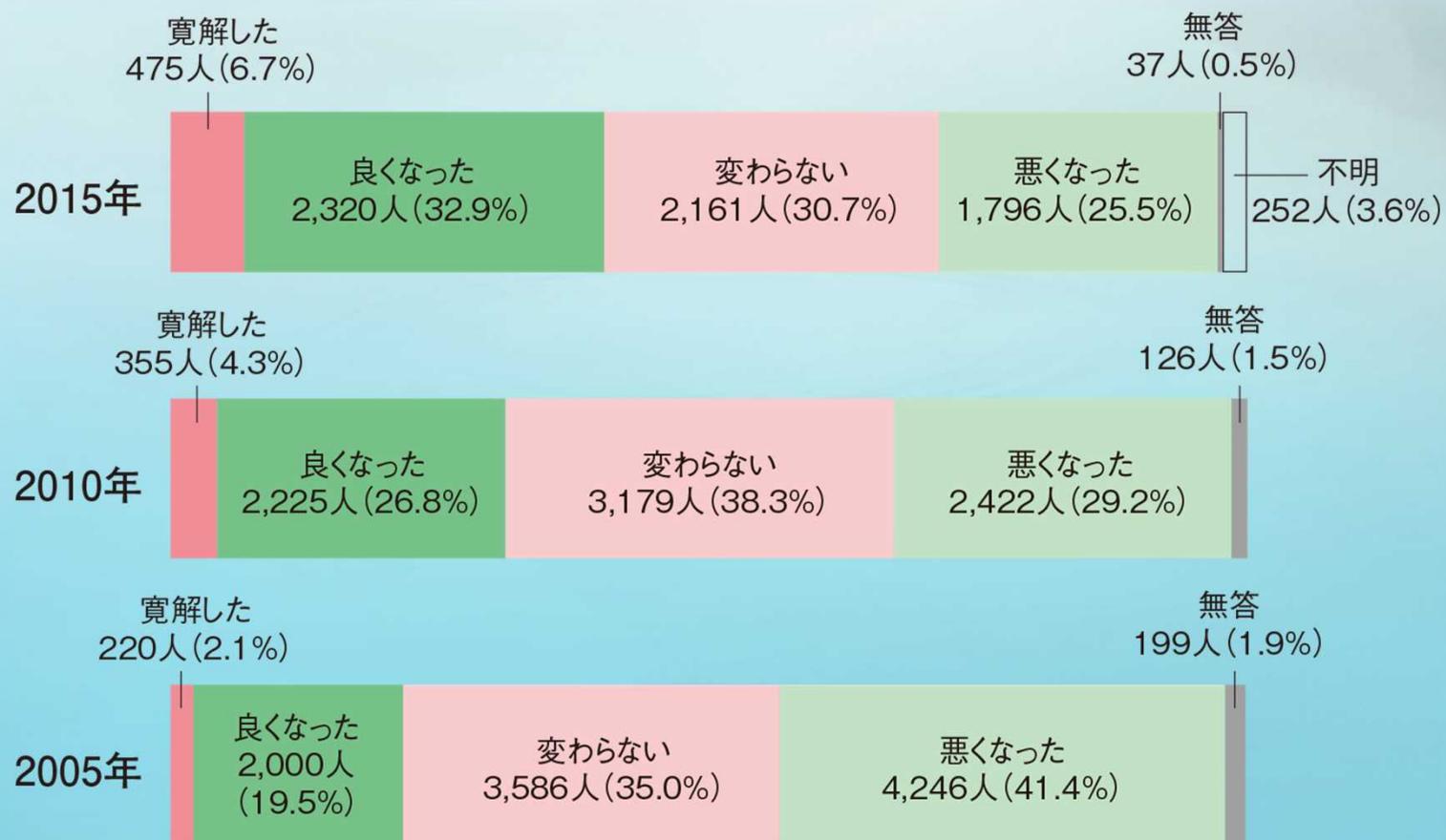
リウマチと診断された年齢



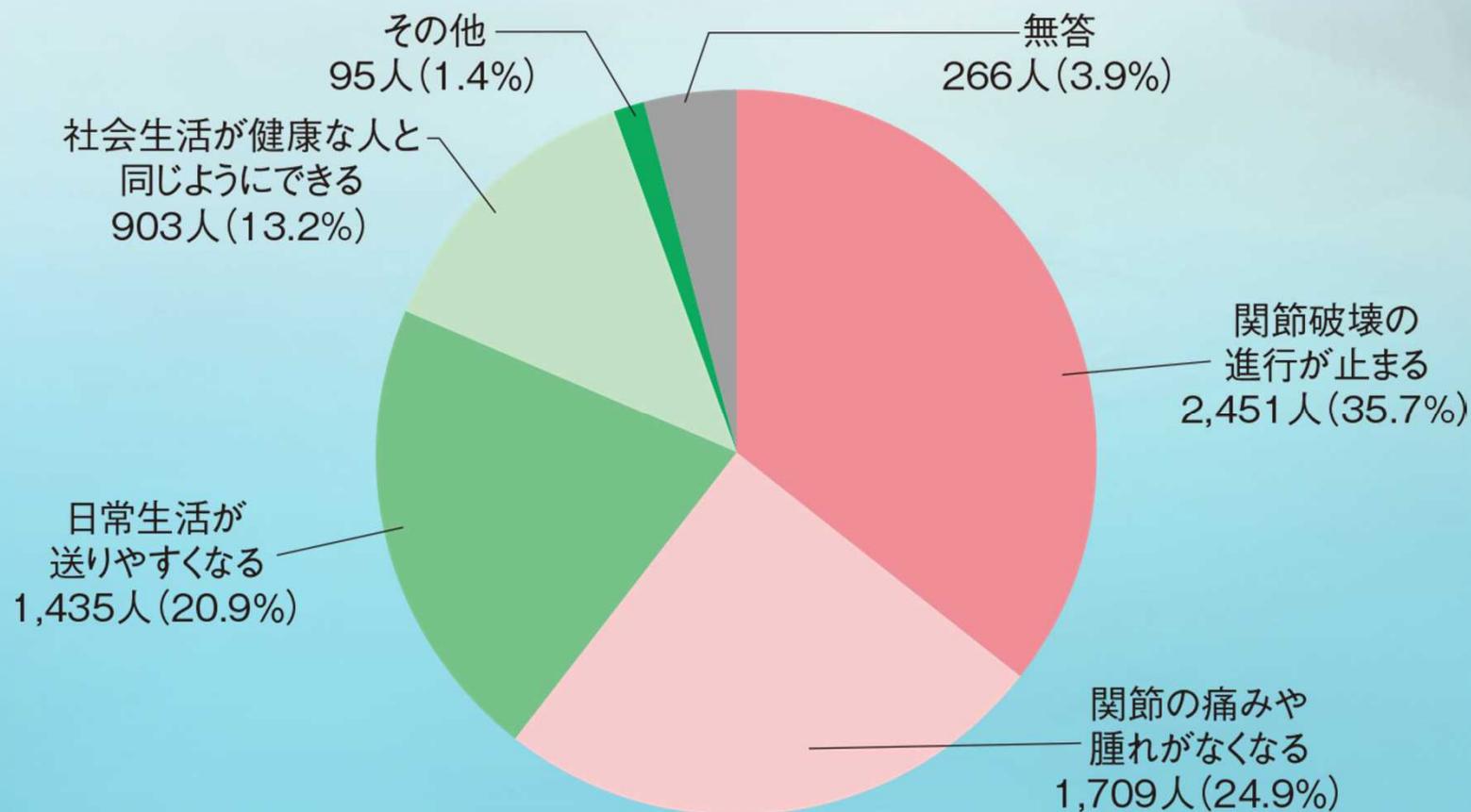
主治医に希望すること



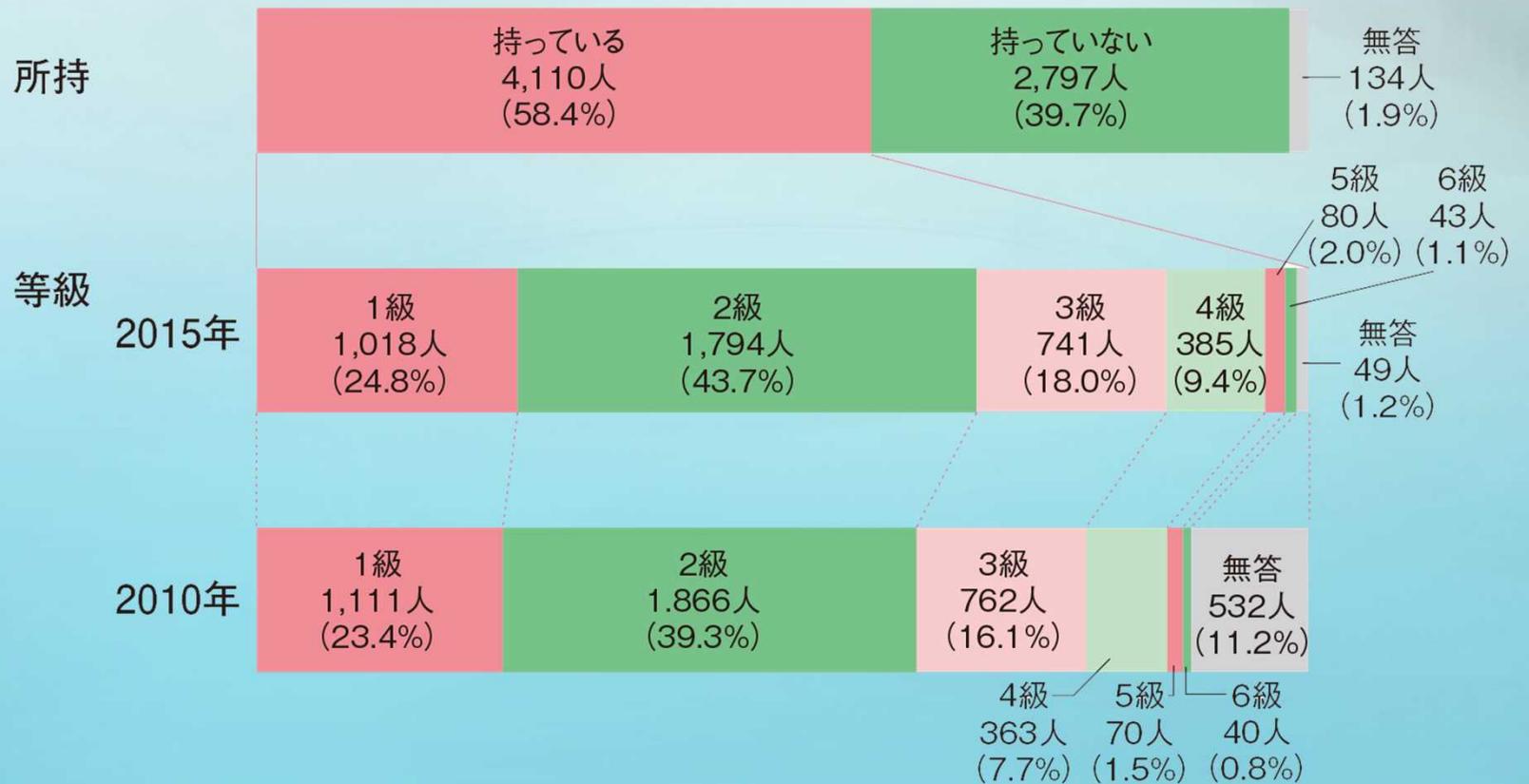
1年前と比較した現在の症状



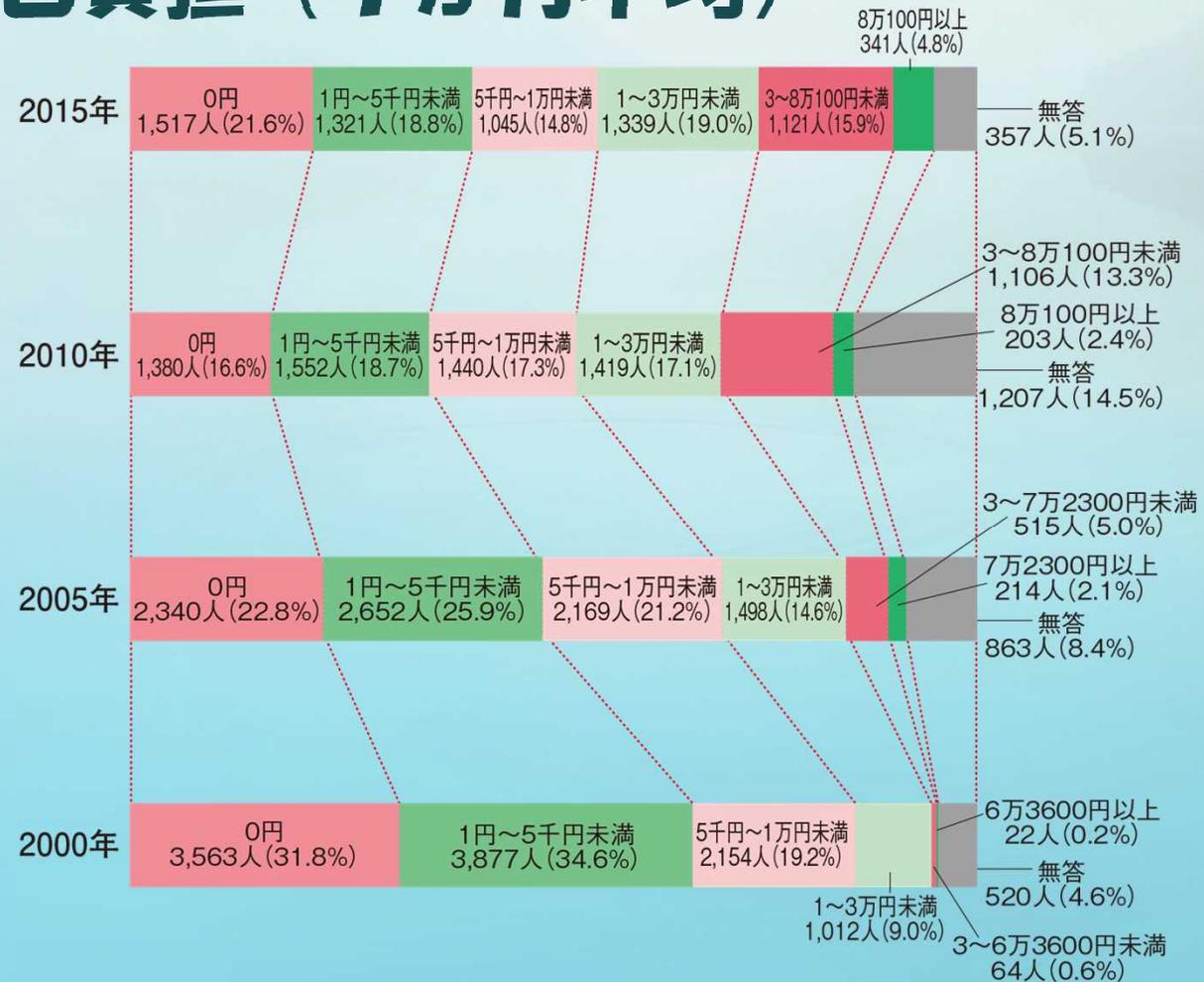
治療に一番期待すること



身体障害者手帳（以下身障手帳）



医療費の自己負担（1か月平均）



(各調査時の高額療養費の額は異なる)

まとめ

- ・ 医師に望むことは、①内科・整形外科の連携、②症状や検査・治療方針などにつき、説明をしっかりとしてほしい等であった。
- ・ 症状のコントロールも、以前に比べ改善はしているものの、十分な状態とはいえない。
- ・ 生物学的製剤の使用による医療費の自己負担が、増加している。